

京極読書新聞 <第53号>

発行日 平成26年 1月15日(水)
京極町生涯学習センター湧学館

京都は深い、そして『平家』も…

黒滝千織（京都市在住）

今年の平家の発表は「京都」の奥深さを改めて感じる事が出来る発表となりました。北海道にいと普段は感じる事の出来ない歴史を京都では日々感じる事が出来ます。歴史上の人物が自分の先祖であったり、歴史上の人物の遭難の地がよく行く洋服屋の目の前だったり。過去は錨の様に私たちを引き止めます。それが京都では日々何かの形で触れる事が出来るのです。

今年の発表は「木曾義仲」ということで、メインは京都府のお隣の滋賀県についての話が多かったのですが、後半では平家物語でお馴染みの武将の子孫の方が千年前の過ちを謝罪に行ったというトンデモな話を皆様にお伝えすることが出来ました。戦が繰り返されてきた京の都にはトンデモな武将を先祖に持つ方々も多く存在しています。今回の発表がなければ私自身もそんなトンデモ体験の話の直接聞くことが出来なかったかもしれません。



京都は歴史があるというだけでなく、実際にそれを語り継ぐ人間がいるということも忘れてはならないのです。私が住む西陣に至っては、応仁の乱という世の中が大きく変わったあの1467年から創業という店も残っており、京都の奥深さ、歴史の偉大さを改めて感じる事が出来るのです。

年に一回、こうして京極町を訪れて発表の機会を与えていただき、私自身も毎年様々な刺激を受けさせてもらっていると実感しています。今年で5回目になった平家物語の発表、毎年の発表の中で皆様の中に何か新しい光が差すものになっていれば幸いです。

京極町という場所にも慣れ、私の発表も京都にいる私の周りの一部の方々にも知られてきました。今年は何をするのかということもよく聞かれ、様々なアドバイスをしてくれる方も多く、毎年色々な人に感謝している日々を送っています。

来年度は何をするか、まだ全く考えてはいませんが、来年度もまた京極町に訪れ、発表をすることが出来ることを楽しみにしています。また、この発表が平家物語読書会の方々だけではなく、多くの人に知ってもらえる様になればとも思っております。

最後になりましたが、毎年熱心に聴いてくれる読書会の皆様をはじめ、恩師であります村山先生、そして湧学館の職員の方々には大変感謝しております。また来年度、とっておきの京都を持って京極町を訪れることを楽しみに、紅葉燃える京都よりお礼のご挨拶とさせていただきます。

(2013. 11. 20記)



京極読書新聞No.54は
3月1日発行です。

この一年間振り返って

〈『平家物語』を読む会〉 村山功一

平成25年度も終わりに近づき、また、一年を振り返る時節となりました。いつものことながら、この時期になると“時の流れ”の速さを痛感します。

さて、私たちの会も順調に回を重ね、現在巻七の後半を読んでおり、年度内には巻八に入れそうです。とはいいながら〈～みな往生の素懐をとげけるとぞきこえし〉（灌頂巻）という最後の一節を読み終えるまでには、まだ相当かかるでしょう。まさに〈前途程遠し…〉の感を強くしますが、同時にそれは一つの励みでもあります。メンバーの皆さんと一緒に、意欲的に読み進めたいと思います。

『平家』には特定の“主人公”は存在しませんが、物語の構成は三人の人物を中心に展開されます。平清盛、木曾義仲、源義経の三人です。現在読んでいる巻七は“義仲物語”に当たります。そんな訳で今年の《黒滝レポート》は「木曾義仲を追う」とし、黒滝さんには京都を離れ義仲拳兵の地といわれる信州（長野県）上田、義仲が葬られている近江（滋賀県）の「義仲寺」周辺を巡ってもらい、その結果を9月6日の定例会で発表してもらいました。このレポートで、ずっと気になっていた“山吹（巴とともに義仲に仕えた女武者）”のお墓も、この寺の境内にあることを知り（映像も見て）感激でした。義仲、巴とともに入京後程なく病死したこともあり、あまり語られることのない山吹ですが、義仲寺にそのお墓を確認し、何かホッとしました。同時に、彼女の運命を象徴するかのよう、義仲、巴のお墓から少し離れてひっそりと建つ風情も印象的でした。

今回はこれとは別に、驚くべき“仰天レポート”がありました。道案内の漁民を無残に斬り捨てた源氏の武将佐々木盛綱の子孫の方たちが、先祖が犯した罪を八百年を経て謝罪に行ったという、途方もない話です。その内容は勿論ですが何より衝撃的だったのは、

『平家』に登場する人物を先祖とする人々が、今でも普通に生活をし、隣に住んでいた、さりげなくこんな話をしてくれたりする

京都という街の一種の“物凄さ”でした。それが千年の都、京都の持つ奥深さであり魅力でもあります。『平家』もまた読めば読むほど奥深い作品です。だからこそ尽きせぬ魅力があるのだろう……そう感じた一年でした。

新年度、私たちの『平家』もいよいよ佳境に入ります。さらに研鑽を重ね、メンバーの皆さんと一緒に味わい、愉しみたいと思います。

一年間お世話になりました関係各位に厚くお礼申し上げます。

年間進行状況（平成25年度）

- ・ 4/5 〔巻六〕 祇園女御
- ・ 4/19 嘆声
- ・ 5/10 嘆声, 横田河原合戦
- ・ 5/24 横田河原合戦
- ・ 6/7 〔巻七〕 清水冠者, 北国下向
- ・ 6/21 竹生島詣, 火打合戦
- ・ 7/5 火打合戦, 願書, 俱利伽羅落
- ・ 7/19 篠原合戦, 実盛
- ・ 8/2 実盛, 玄坊
- ・ 8/23 木曾山門牒状
- * 9/6 黒滝レポート “木曾義仲を追って”
- ・ 9/20 返牒, 平家山門連署
- ・ 10/4 主上都落
- ・ 10/25 維盛都落
- ・ 11/1 聖主臨幸
- ・ 11/15 忠度都落
- ・ 12/6 経正都落
- ・ 12/20 青山之沙汰, 一門都落
- ・ 1/10 一門都落, 福原落
- ・ 1/24 福原落
- ・ 2/7 〔巻八〕 山門御幸
- ・ 2/21 名虎
- ・ 3/7 名虎, 緒環
- ・ 3/14 緒環

（1月～3月は予定）

「後志の文学」読書会 平成25年度の終了 今年もいっぱい本を読みました…

①「沼田流人」読書会

		テーマ	テキスト
第1回	5月17日（金）	「キセル先生」	「沼田流人マガジン」1 武井静夫「沼田流人伝」
第2回	6月14日（金）	「血の呻き」 吉田絃二郎	「沼田流人マガジン」2
第3回	7月12日（金）	「血の呻き」 大森光章「このはずくの旅路」	「沼田流人マガジン」3
第4回	8月 9日（金）	「三人の乞食」 「ルーチン」 二葉亭「うき草」	「沼田流人マガジン」4
	9月13日（金）	小谷淳氏／書	「沼田流人マガジン」5
第5回	11月8日（金）	尾形昭子氏	「沼田流人マガジン」6
第6回	12月13日（金）	まとめ 今後の展望	

②「山麓文学館」

		テーマ	テキスト
第1回	5月17日（金）	京極・岩内	市川森一「ここではない何処か」
		留寿都、ほか	大沼桂子「多与」
第2回	6月14日（金）	二セコ	畔柳二美「青いりんごのふるさと」
第3回	7月12日（金）	二セコ	畔柳二美「こぶしの花のさく頃」
第4回	8月 9日（金）	岩内	八木義徳「漁夫画家」 木田文子「木田金次郎とともに」
		京極	大森光章「凍土抄」
	9月13日（金）	京極（脇方）	大森光章「王国」
		二セコ	畔柳二美「限りなき困惑」
	10月12日（土）	後志・「山麓を一巡り」バスの旅	
第5回	11月 8日（金）	喜茂別	本山悦恵「暮春」
第6回	12月13日（金）	喜茂別	行方洋子「さみしい橋」

2013年12月8日 戦時下の紙芝居上演会／「袖珍文庫」展示会

25人の参加がありました。3500人足らずの町で「25人」は大した数です。この世に存在していないはずの「国策紙芝居」が、今、私の目の前にあるという迫力に驚きの声があがっていました。



2014年1月8日～11日 冬休みは図書館へ行こう！！スペシャルイベント



一日司書体験

発行

京極町生涯学習センター湧学館
〒044-0101 京町字京極158番地1
TEL 0136-42-2700(代表)
FAX 0136-42-2032
E-Mail yugakukan@town-kyogoku.jp



ホームページもご覧ください
<http://lib-kyogoku.cubet.com/>

図書館オリエンテーリング

